

伊東市の課題についての公開質問について

市民懇談会 世話役 太田 進 さま

田久保真紀

【医療】

医療の問題は、市民病院が総合病院として大きな役割を期待されているにも関わらず市民満足度が低い状態のまま何ら改善が見られないのは大きな問題です。医師や看護の人材不足は全国的な問題とはいえ、伊東市民病院の離職率は非常に高く人材不足が常態化しています。今後も市民病院に基幹病院としての役割を期待するならば、伊東市側も前向きに病院運営に働きかけをして、抱えている問題を一緒に解決していこうという前向きな姿勢が必要になります。離職率の多さを考えると今後の人材確保の面も働く現場スタッフの環境改善は急務で取り組むべき問題です。

又、市民病院の問題だけではなく、地域医療を支える各医院やクリニック、医師会や薬剤師会からの意見を真摯に汲み上げる仕組み作りに努め、市民要望の高い「医療の充実」に向けて現状の改善が必要です。このまま対策が遅れ続ければ、市民病院・地域の医療機関共にますます厳しい状況に追い込まれていくことが予想されます。

【福祉】

社会問題の複雑化と福祉の現場での人材不足の問題、今まで見守りを担っていた町内会や地域ボランティアの組織維持が難しくなっている問題などが重なって、人口減少と高齢化を迎える今後の伊東市にとって福祉政策は将来に向けての抜本的な改革を必要としています。

伊東市では、子どもの問題、障害を持つ方への支援、高齢者福祉、生活困窮者支援などが従来型の「タテ割り行政」のまま運営されていて、それぞれ違った担当課と担当者が担当しています。このような行政運営を続けていけば、今後、増大し続ける福祉へのニーズと市民サービスに対して、提供量が追いつかなくなることは目に見えています。このペースでは今後きめ細かな対応を提供することは、ますます難しくなっていくでしょう。

行政改革に取り組む自治体の例では、こういったタテ割り行政の問題点を解消し、国の制度を活用して「重層的支援体制」が整備されています。タテ割りの担当を止めて各地域に相談員を配置したり、地域支援員を派遣して町内

会等の人材難を補填するなど積極的な取り組みが進んでいます。伊東市でもこのような取り組みに対して検討チームを立ち上げて、有益な国の制度をもっと積極的に導入すべきです。福祉政策を担う地域や組織、事業者への必要な支援を適切に行い、市民満足度の高いサービス提供を推進していくべきと考えます。

【教育】

今、伊東市の大きな問題の1つに小学校・中学校、幼稚園と保育園の統廃合や施設の老朽化の問題があります。地域から学校が消えることは近い将来、その地域から子供の姿が消える可能性が高くなることを示唆します。そのため、将来の人口減少を見込みつつ就学児童や園児の減少を出来る限り食い止める為の子育て・移住施策と、地域や保護者との念入りな協議と合意形成のを合わせて、慎重な統廃合計画を立案しなければなりません。

宇佐美に計画された認定こども園の新築計画に対し計画への反対署名が集まりましたが、この件に留まらず、今の伊東市では教育分野のように特に地域や保護者との合意形成が必要な事業についても、しっかりとしたプロセスを踏まず結論ありきの進め方をしていると感じます。市民の意見を反対意見として抑え込むような今までのやり方は一掃し、丁寧な事前の説明や勉強会の開催、協議会や意見交換会を重ねて開催し、意見の言いやすい環境を作るなど、教育分野においては特に「地域や保護者の声に十分に耳を傾ける」姿勢に行政側が歩み寄ることが重要です。

不登校の生徒が非常に多いことに加えて、ニーズが高まっている市内の放課後児童クラブを視察する機会がありましたが、施設のスペースや職場スタッフの人員にはまったく余裕が無く、現場は常にギリギリの環境の中での運営を迫られていました。

施設を作って終わりではなく、保護者のみなさんが安心して子どもたちを託せる環境を作る為にもっときめ細かく運営や内容の充実を図ることが必要です。

深刻化する不登校対策については、子供たちや保護者の相談に応じられるソーシャルスクールワーカー(SSW)の増員や統廃合による不登校への影響の検証も不可欠です。この人員配置には予算をつけたいと持っています。

又、教育と子育て支援の両面から、子どもがのびのびと遊べる広い子育て公園や雨の日でも遊べる児童館の設置が望まれています。パークPFI制度等で民間資本をうまく活用して財政負担を抑えつつ、このような公園や施設の整備に積極的に取り組むことが望まれます。

【文化】

文化は育まれるものであり、地域に浸透していく為の年月と関わる人たちの情熱が必要とされる、息長く取り組んでいく必要がある事業です。

図書館や文化ホールなど新しく綺麗な建物を作れば文化が発展するだろうという考え方からは脱却し、文化を担う市民活動との連携、箱の中で中身を動かすスタッフや館長の情熱、それを支える行政の熱意と姿勢、文化の発展に寄与するためのこの3つの実現の為に、伊東市の側で、もっと率先して旗を振る必要があります。

新図書館建設が問題点を浮き彫りにしていますが、その施設にどのような役割を与え、何を達成する為にどこに施設を設置をするのか、目標と指針を明確に市民に対して示して意見を収集し、念入りに合意形成を図った後に大型施設に対して市民の税金を投入すべきであることは、言うまでもありません。

新図書館の建設に必要以上に偏るのではなく、もっと広域な目線で、市民が自由に活動できる市民センターを廃校利用して開設するなど、文化が育つ土壌を作ることから取り組んでいくことが大事ではないかと感じます。

伊東は文化と歴史、芸術という地域資産が根付いている素晴らしいまちであり、市民の意識も非常に高いと感じます。文化という無形財産を保存し、後世に伝え発展させていく為に「文化を育む為」の事業構築と、市民が協力したい、一緒に活動したいと思える環境を行政側が率先して作っていくことが今の伊東市に足りない部分だと思います。

【交通・生活サポート】

人口6万人を有する「観光のまち」として、伊東市の公共交通の遅れは大変深刻な問題です。民営のバス会社やタクシー会社はあくまでも民営としての経営が基本であり、空白地帯の解消や生活サポートの足の確保など利益が望めない公共性の高い分野についてまで、補助金頼みで民営の会社に依存する現在の方針には限界があります。このような方針は根本からの見直しが必要です。

現に、バスは減便につぐ減便が続き乗車料金は上がり続けていて通勤や通学、買い物や通院などの市民生活に既に多くの問題が生じています。

ひたすら補助金を投入する今のやり方で今後この問題が改善されるとは到底思えません。

公共交通の問題に対しては、私の政策テーマでもあり今まで議会や議員活動を通じて多くの指摘や提言を繰り返してきました。まちなかを走る市民の足、小型の循環バスや観光スポットを繋ぐ観光用バスの運行、空白地帯を埋める為のデマンド型AI乗り合いタクシーの導入など、交通事業者の経営に負担をかけず、既存の交通網と馴染む形でのシステムの導入が急がれます。

月額定額乗り放題の新交通サービス(デマンド型小型バス、乗り合いタクシー)等は、システムの導入によって交通事業者にとっても定額の収入が見込めるようになり、事業収入が安定的になったという話も視察先で確認しています。コミュニティバスやAI型乗り合いタクシーなどは他の自治体では既に当たり前のように実施されている事業であり、伊東市はこの遅れを早急に解消して新しい公共交通の運行を実現させる必要があります。

人が移動することでお金の流れ、経済の循環が生まれます。
市民の足の充実、観光のまちとしての交通手段を整備することは、市民サービス向上に留まらず、経済対策としても最重要の項目です。
課題は多く山積みになったままですが、これをしっかりと解決し、早期の新交通手段の導入を目指していきます。

【まちづくり】

伊東市のまちづくりにはグランドデザイン(中長期的な社会的ビジョンやまちのあるべき姿を具体化した計画、その実現に向けた事業の策定)が明確に示されていません。私の政策のうち、この大きなまちづくりの地図を描いていくことは重要な政策の柱でもあります。

このまちがどんなまちでありたいのか、どんなまちであるべきか、市民と行政、地元の民間企業が本当の意味で膝を突き合わせて、まずは大きな未来の設計図を描かなくてははいけません。

新図書館の建設も、宇佐美の認定こども園の新設も、大きなまちづくりの地図の上に位置する大切な役割を果たす施設のはずですが、伊東市の今の計画の立て方は「建てられる場所を探して建てられるものを建てていく」といった箱モノ行政運営から脱却ができていないと感じます。

市民にとって本当に必要なものに優先順位をつけて、最適格な場所を選定して施設を配置すべきです。

又、まちづくりの基本となる人口動態(人口がどんどん減るという試算)に移住による人口の途中流入が考慮されていない大きな問題が伊東市にはあります。

以前から市民に指摘を受けていますが、計画の基礎となる人口動態のデータに正確性や精密性が欠落していることは大問題であり、移住して転入してきた世帯がどの地域に居住したかといった重要なデータも伊東市では取っていないということで、これでは計画の土台自体があまりに片手落ちです。

学校統廃合や公共施設の配置等を考える際、より正確な人口動態データは当然あるべき必要なものです。立地適正化計画など、既にある計画が現実に即したものになっているかの総点検を行い、修正すべき点は修正をかけて、精力的に市民と地元企業と官民協働によるまちづくりを推し進めていきたいと考えています。

伊東市では老朽化した公共施設やインフラの整備・更新(道・橋・上下水道等)、又、観光資源として最も重要な温泉資源(源泉の管理)が大幅に遅れています。災害対策の面からも、これは積極的に取り組むべき重要課題の1つです。ここには出来る限りの予算を割いて投入し、災害と観光に強い、活気あふれる伊東のまちを構築したいと考えています。

【産業振興】

産業振興、経済の活性化と言うと必ず「外部からの企業誘致」が挙げられます。しかし外部からの企業誘致は、市内の産業を盛り立てて市内業者や市民の懐を潤すことが目的であることを忘れてはいけません。

外部から引っ張った企業が地域資源を使って独り勝ちしていくような構図を作るのではなく、新たにメンバーとなってくれる企業と共に、地域全体の経済が潤う仕組みとセットで考えていくべきです。

常に、地元ファースト、地元経済の振興の為の産業振興に努め、地域性に沿う、伊東の持つ素晴らしい自然環境を損なうことのない産業と企業誘致を進めていかなければなりません。

伊東は半島に位置して決して交通アクセスに利がある自治体ではありませんが、素晴らしい自然と静かな住環境を持つ美しい地域です。

自然環境を活かした産業の育成、農業漁業、伊東市内に育っていない林業などの1次産業の振興とともに、伊東の基幹産業としての観光業と共存共栄できる産業の誘致を進めたいと思います。

私の得意分野であるネットやIT関連、アニメや映像制作などの技術職と伊東は相性がよいと感じますが、そのためにはもっと強固なネット回線の整備、インフラの遅れ解消などの問題点もあります。産業振興の面から見ても、伊東市のインフラ整備の遅れには問題が多くあります。

地域性と環境に適合する新規の参入や既にある市内事業者の新たな設備投資に関しては、税負担の減免措置なども含めた実務的なバックアップ体制を敷いて積極的に取り組んでいきたいと考えます。

又、観光の面からもまちなかの商店街、シャッター通りの改善も急務です。移住促進と合わせて、スタートアップ事業やシャッターを開けてもらう為の政策について、既にいくつかの実務的な構想が私の頭の中にはありますので、手を挙げていただける民間事業者や団体等とよく連携を図り、地域の意向を汲んだ形の事業に新たに取り組んで、目に見える形で状況の改善に努めたいと思っています。

以上、政策について並べて参りましたが、正直に申し上げて、今まで改善してこなかった問題点、後回しになっていた課題、まったなしの急務が盛り沢山に溜まっています。これだけ山積し続けてきた問題を解決していくには、決断力とともに、実行力、政策立案能力と業務効率の見直しなどバランスの取れた能力が問われます。市議会議員として各地を視察し問題意識を持って得てきた知見を活かして、伊東の持つ高い市民力と協働してスピーディに問題解決に向けて行動をしていきたいと考えます。

このまちの未来をみんなで作っていく、という熱意と首長が自らその先頭に立って旗を振り、行政も市民も一丸となって目標達成の為に動いていくような活気を作り出すことが何よりも求められます。市民と行政が一体となって新しい伊東のまちを作っていく未来を1日も早く実現したいと思っています。